

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年3月15日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 4271501019 |
| 法人名 | 株式会社ウエル |
| 事業所名 | グループホーム徳ちゃん |
| 所在地 | 〒857-0414 長崎県佐世保市小佐々町矢岳1062-3 (電話) 0956-69-3012 |

| | | | |
|-------|------------------------------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構 | | |
| 所在地 | 〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1F | | |
| 訪問調査日 | 平成21年3月2日 | 評価確定日 | 平成21年4月1日 |

【情報提供票より】(H21年2月6日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|----------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 16年 12月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 17 人 常勤 9 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.3 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------|
| 建物構造 | 木造平屋建て 造り |
| | 1階建ての 階 ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|-----------|------------|---------|---|
| 家賃(平均月額) | 31,500 円 | その他の経費(月額) | 9,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) (無) | | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(円) (無) | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 800 円 | | |

(4) 利用者の概要(2月6日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 14 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 5 名 | | |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 87.4 歳 | 最低 | 74 歳 | 最高 | 99 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 田中医院・北松中央病院 |
|---------|-------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐世保市内からかなり離れているが、漁港に近い県道沿いに平屋でゆとりがある敷地に設立されている。地域住民が入居されているため家族訪問も多く、近隣住民が新鮮な野菜や魚などを届けに来られるのが、自然な光景となっている。地域密着型としてグループホーム職員・入居者・住民が当たり前の暮らし方として溶け込まれている様子がわかる。地域への還元として夏祭りの時は多数の住民やボランティア・家族が参加され、入居者も楽しみにされている。訪問時の職員と入居者の笑顔から温かい雰囲気が滲み出ているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の改善課題は6項目あったが殆ど取り組みをされている。同業者との交流は佐世保市グループホーム協議会への加入も決まり、多機能性を活かして地域住民からの相談を受けて解決への手助けをされている。現状に即した介護計画が災害時の持ち出しリストとして使える取り組みにも活かし、栄養や水分摂取にも細かい観察をして健康管理につなげてあり、鍵を掛けないケアはしっかり自覚されている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価票はパート職員にも見てもらい全職員が自分で書き込み、まとめるときは職員からの意見を聞きながら管理者を含めた3名でまとめられている。自己評価をすることでそれぞれの職員が介護の振り返りや見直しにつなげられている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 2ヶ月に1回開催されている。参加者は行政の職員・民生委員・数名の地元住民や家族が参加し、汚水臭などで地域産業に支障がでない取り組みへの要望や夏祭りの取り組み方など反省点も出され活発な意見交換がされている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 入居者は地元住民が多く、最低でも週1回家族訪問がある。遠方の家族には便りや電話で現状を報告されており、家族が苦情を言われる事はない。外部にある相談窓口も紹介しいつでも何でも聞いてくださいとの姿勢を示されている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 地区自治会に加入しており、グループホームの行事は回覧板や掲示板を利用し、地域住民への呼びかけをされている。地域行事の際は招待されることが多く、入居者も喜んで参加されている。近隣住民が新鮮な野菜や魚を持ち寄られ、小中学校との交流や中学生の体験学習の受け入れなどを通して交流は盛んにされている。 |

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|-------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 【認知症があっても安らかに、その人らしく、生き生きと、暮らしていくことを支えます】を理念とされている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を職員全員が認識されており、毎日ミーティングの際に理念と目標を確認して日々のケアに取り組まれている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の自治会に加入しており、グループホームの行事は回覧板や掲示板に掲載し、入居者も喜んで参加される。地域行事の際は招待されることが多く、近隣の住民が新鮮な野菜や魚を持ち寄られ、小中学校との交流や中学生の体験学習の受け入れなどを通して地域との交流を盛んにされている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価はミーティングに参加できないパート勤務者を含め全員に配布しミーティング時に話し合った。管理者を含む3人で意見を出し合い2週間かけてまとめた。評価の意義は理解されており介護の振り返りに繋がっている。外部評価の意義も理解されており、改善への提案に積極的に取り組む姿勢がうかがわれる。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催されている。参加者は行政の職員、民生委員や地域住民が参加されている。運営推進会議でクリスマス会の見学や入居者との食事会など多彩な会議にされており、意見交換も活発にされている。 | | |

グループホーム 徳ちゃん

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|--|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域の行政センターや市の担当職員との交流は運営推進会議以外でも相談したり、指導を受けるなど交流を持たれている。行政と相談しながら地域住民や家族に向けた後期高齢者の医療保険などの講習会には50名近い参加者があり、今後も継続していく姿勢が見受けられた。 | ○ | 困難事例については行政に相談し、現状を伝えて解決していくことが大切と気が付かれており今後の連携に期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 近隣からの入居者が多く家族は最低週1回訪問される。その時に健康状態や生活状況の報告や家族の要望など聞いている。預かり金はないが、家族と本人の責任において小額を持たせている家族もおられる。定期的に便りを出し遠方の家族や必要時は電話連絡をされている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の投函や家族に御意見を尋ねても要望は殆どないが、漁業の町なので「季節によって汚水臭が強いときがある」という住民の声があり、対策に当たられている。運営推進会議で外出傾向が強い方への一時的措置で玄関にプザーの取り付けをしたことや、地域での見守り協力への感謝など伝え、運営の反映に活かされている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 同じ廊下つながりで2ユニットあるが、職員の異動は殆どない。新規採用者については入居者にきちんと紹介し当ホームのことを教えてもらえるようにしている。家族訪問時に自己紹介をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | なかなか研修に行く機会が少なく、職員の中で研修参加者は少ない。当グループホームの運営規定には、採用時研修は勿論、勤務年数が長い方にも「継続研修は年1回」とされている。 | ○ | 今後は、継続研修を受ける機会を作られることに期待したい。また、資格取得の支援も、職員が向上心を持って働き続ける意欲に繋げるために今まで以上に期待したい。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 佐世保市のグループホーム協議会へ4月から参加することが決まっており、情報交換の機会を多くもたれる取り組みをされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>本人と家族の見学や職員と顔なじみになるように段階を踏んで入居されているが、入居当初は不安感のために、外出傾向や帰宅願望が強く職員の場合に応じた声掛けなど工夫をされている。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>職員と共に散歩をされる時や入浴時には、労わりの言葉を職員に言われたり、菜園での野菜作りや草取りなど職員に教えながら本人も楽しんでいる。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>自分の思いや意向を言葉で表現できない方が多いため、表情や態度で本人の癖を把握されている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>家族と相談し要望や希望を伺い、本人の要望も取り入れながら職員とのミーティングで意見を出し合い介護計画を作成されている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>3ヶ月に1回見直しを行っている。生活や病状の変化がなく落ち着いている入居者の「緩やかな状態の変化がないか」、「評価・見直しが必要ではないか」などミーティングで話し合われている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|--|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 自宅で暮らす認知症の方の家族からの相談に乗るなど地域の相談窓口になられている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 当ホームの関係者が病院院長であり医療連携を取られている。入居者の殆どの主治医となられており、常時連絡が取れる体制の整備をされている。往診をされており、休診日は看護師と連絡が取れるようになっている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時に家族と口頭で終末期のあり方をどうするか聞き取りをされている。状態の変化に応じて主治医と家族、ホーム職員と話し合いを持たれている。 | ○ | 家族や主治医との話し合いは行われているが「看取りの指針」として文章化されることが望ましい。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉使いで馴れ合いになると無意識に荒くなることがあるため気を付けているが、トイレへの誘導や声かけに問題が見られた場合は、職員同士で入居者がいない場所で即座に心がけるように注意している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の日課はおおよそ決まっているが、あくまでも本人のペースを優先している。その日その時に応じてドライブや散歩などを支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|---|------|---|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 近隣住民からの食材の差し入れや入居者の希望でメニューの変更などしている。食材の買い物について来られる入居者もおられ下ごしらえや味見などしてもらい、楽しく職員と共に食事され和みがある温かさを感じ取れる。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の意向を優先して入浴支援をしている。夜間に希望される方は原則見守り程度で可能な方や友人と一緒に入浴される方もいる。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 生活歴から、野菜作りや梅干作り、魚の下処理が上手な方など得意分野を担当してもらい、役に立っていることで喜びを見出される入居者も多い。地域行事への参加も楽しみにされている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候に左右されるが、なるべく車椅子の方も外気に触れる機会を持ち、短時間の散歩やドライブに連れ出すような支援をされている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 1ユニットは夜間のみ施錠されている。1ユニット玄関は外出傾向が強い入居者がおられ、自分の靴を見かけると自力で鍵を開けて出て行かれるため昼間の施錠をされていた。夜間でも家族に電話をかけて話をしてもらい落ち着かれるような支援をされている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の指導のもとに消火器の使い方や入居者の避難誘導訓練をしている。近隣住民にも協力してもらっている。 | ○ | 避難場所の確認や、持ち出し用の入居者ファイルは2ユニットとも作成途中である。自然災害時の備蓄への備えを検討されることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 医師から指導を受けた場合を除き、普通の食事を食べてもらっている。栄養バランスや水分摂取量をチェックしている。残食と飲水量を比較し、少ない傾向があれば、家族や医師に相談している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は、季節を感じる飾り付けをされており、サンルームや庭、窓際などにゆっくり過ごせる空間に思い思いに座って過ごされるように工夫がされている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者の生活の様子が感じとれる、個性がある居室になっている。 | | |